

2013年PETボトル・プラスチック容器包装リサイクル 『第5回市民・自治体・事業者の意見交換会 in くまもと』報告

熊本市環境局 ごみ減量推進課長 川口宏治氏 報告風景

開催概要：前半の全体会では、リサイクル・3Rに関して、自治体・市民・事業者の各取り組みの報告を行い、相互理解を深めました。
 後半の分科会では、日頃疑問に思うことや感じていることを出し合い、「より良いリサイクル・3Rのあり方や容器包装の環境配慮設計」について自由テーマで討論しました。



熊本市消費者団体連絡会 会長 植村米子氏 報告風景

日時：2013年9月20日
開催場所：熊本市国際交流会館
参加者：市民関係者 24名
 自治体/行政関係者 23名
 事業者 22名 計 69名



サントリー酒類株式会社 九州熊本工場 事務長 南孝之氏 報告風景

主催者：PETボトルリサイクル推進協議会
 プラスチック容器包装リサイクル推進協議会



当日のスケジュール：

時間	内容
13:00~13:05	主催者挨拶 プラ推進協議会 会長 小林三喜雄
13:05~13:25	自治体の取組報告ー熊本市のごみの現状についてー ~めざせ!家庭ごみ20%減量~ 熊本市 環境局ごみ減量推進課 主席環境審議員兼ごみ減量推進課長 川口宏治氏
13:25~13:45	市民の取組報告 ー家庭ごみ有料化とノーレジ袋運動ー 熊本県消費者団体連絡会 会長 植村米子氏
13:45~14:05	事業者の取組報告 ーサントリーの3Rの取組みと環境活動ー サントリー酒類株式会社 九州熊本工場 事務長 南孝之氏
14:05~14:25	ーPETボトル・プラ容器包装 そのリサイクルの現状と課題 プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保直紀
	***** 休憩・移動 *****
14:30~15:50	分科会 3分科会 ごとに話し合い PETボトルとプラスチック容器包装のリサイクルについて、日頃疑問に思うことや、問題点と感 ること、要望など事前にいただいたご質問も含めて、自由テーマで話し合い。
15:50~16:00	***** 休憩・移動 *****
16:00~16:30	分科会まとめ報告
16:30	閉会挨拶

『リサイクル・3R・容器包装の環境配慮設計』に関して
テーマを特に設けず、フリートーキングで、意見交換

略語：市民＝民、自治体（市区町村）・県庁・省庁＝自・県・国、
事業者＝事、ファシリテーター＝ F

進め方

1. はじめに自己紹介する。
2. 当日前半の市民・自治体・事業者の取り組み報告や、容り法等に関する意見・疑問をポストイットに各自記載し、テーマごとに論点を整理し、論点ごとに適切な人が回答し、意見交換を行った。

第1分科会

主な討論内容：『環境教育と広報活動、PETボトルのB to B、リターナブル・デポジットについて企業の取り組み、プラ排出時の洗浄と材質、バイオマスプラについて材料リサイクルとサーマルリサイクル、資源の持ち去り問題、事業系一廃、広域の分別について』

参加者：計 16 名
市民：4 名
自治体・国：4 名
事業者：8 名



1. 子供の環境教育(ごみ分別)と市民への広報について

自：4年生・5年生へ環境教育を実施しており、ごみ問題も取り扱っている。先生の悩みは、学校では実践しても家に帰ったら忘れていないかということ。

市民には、ホームページに掲載して広報している。マイバッグキャンペーンでは、1200店舗以上が参加している。標語も募集し、今年度は3000以上の応募があった。他の部署も活動している。分別排出ルールなどが、独身男性、学生や外国人に行きわたらないことが悩み。

今後益々高齢化社会になり、福祉施設の受入も限界がある。

自宅で一人暮らしの高齢者でも、例えばPETボトルのラベルの剥がしやすさの向上や説明で、剥がさずに出してもリサイクルに支障のないようにしていくことが望まれる。

自：子供の環境教育については教育委員会が所管し、学校の先生が主体。

事：事例報告にあったように、例えばサントリーさんとのタイアップも行われている。

自：保健所や環境センターなどから要請があれば、出前講座は、どこへでも行って実施している。

自：環境行政について、水俣は進んでいるが、熊本も追いついてきた。自治体の体制や地域によって市民意識の差が大きい。例えば、RDF処理をしているところは、ごみをまとめて出せる（分別不要）ので意識が上がらない。RDFを止めていかないと焼却が困難になるのではないかと。また農家の意識は高いが都市部マンション等の意識は低い。

民：分別は家族の協力が一番難しいという問題がある。

事：うちでも娘がやらない。

民：高校生の息子は小さいときからずっとやってきて、分別だけは言われなくてもきちんとやっている。

子供に関しては躰、積み重ねが必要。

民：慣れてくると飲み始めにおしゃべりしながらラベルを剥がすようになる。慣れてくると男性でも当たり前にラベルを剥がすようになるのでは。

民：大学周辺のごみの分別の状態が非常に悪いと聞いている。独身男性より学生は悪いようだ。

事：昨年仙台の意見交換会でも、学生さんが分別ルールを守らないことに悩んでいるとのことだった。一生懸命教育しても4年でいなくなることも一因。

民：環境教育でゴミ問題をやり出した最初の頃の子供が大学生になってきている。今後変わるだろうか。

事：社会人になればまた厳しく教育される。

民：大学生は意識がバラける時期。

事：小学校だけでなく中学、高校と継続的な教育も必要ではないか。

自：習慣化がポイント。

民：大学生にボランティアを義務付けてはどうか。

2. PET ボトルのボトル to ボトルについて

民：サントリーさんのリペット（BtoB ボトル to ボトル）を業界一本化し、ごみ減量してほしい。

事：BtoBは追い求めていきたい。前半の久保専務の報告のようにプラスチックのリサイクルは簡単ではなく、特に口に入るものの容器へのリサイクルは、安全衛生の担保が大変であるが、サントリーは技術のある再生事業者と組み、業界に先駆けて実施した。今後業界全体でスパイラルアップするようにしていきたい。

民：BtoBは、なぜなかなか実現しないのか。

事：使用済みのPETボトルをきれいな状態で回収できるかどうか重要で、現在の家庭からの分別排出と自治体の分別回収は安定的にきれいな状態であり、BtoBに向いている。市民・自治体・事業者の連携を深め、難しさもできることもお伝えし、BtoBを広げていきたい。

事：10年前化学分解法で分子レベルまで分解し、蒸留し、再重合することで安全衛生性を担保する技術を開発したが、エネルギー消費が大きい。メカニカルリサイクルはプロセスをショートカットしているが、回収ボトルがきれいであれば安全衛生性も担保しやすいので、きれいに集めるシステムが重要である。容り法の指定法人ルート（市民の分別排出と自治体の分別回収）はレベルが高く、きれいである。また容り法の枠外であるが、スーパーの店頭回収でも市民はきれいに洗浄・分別して出している。コンビニ等のきれいとは言えない回収品は現状では難しい。

事：例えば窓拭き洗剤入れのような他用途に転用されると、回収されて一見きれいに見えても汚染されており、食品容器へのリサイクルが難しくなるので止めてほしい。

（注：当日お伝えできなかったが、化学分解法でもメカニカルリサイクルでもそのような汚染が有っても除去できることを代理汚染試験によって確認している）

3. PET ボトルのリターナブル・デポジット制について

民：リターナブル・デポジット制のPETボトルは日本では難しいのか。

事：本家のドイツでも減少してきている。BtoBはワンウェイではあるがリユースに近いと言える。現在の容り法のシステムに加えてリターナブル・デポジットのシステムを構築することは高コストになるのではないかと心配する。海外ではきれいに排出するという市民意識はなく、汚れたものを、ソーティングセンターで選別している。PETボトルは現在の容り法のシステムが良いと思う。

事：子供の頃はガラスのリターナブルびんだけであったが、今では軽く再栓もでき、持ち運びもできる便

利な PET ボトルに置き換わった。便利だけにリターナブルにして店に持ち帰る行動をさせることは困難ではないか。一方ビールびんは家庭で飲まれることは少なくなったが、野外に持ち運ばれることもなく、居酒屋等の店舗内で飲まれるのでリターナブルが成り立つ。

事：本日の資料に PET ボトルリサイクル推進協議会の年次報告書が入っており、リサイクルだけでなくリデュースやリユース (p. 6) の取組みも報告している。環境省の 2009 年の研究会の結論では、PET ボトルのリユースは、安全衛生のほかに環境負荷の観点から、高い回収率と短い輸送距離でなければ成り立たないと結論づけている。例えば農薬の一時保管などに絶対使わず、きれいに確実に回収できる宅配ルートなら成り立つ。それで、業界としては少しでも環境にやさしくありたいと願い、リデュース・軽量化とともにリユースに近い高度なリサイクルである BtoB に取り組んできている。また各社も競争しながら取り組んでいる。

4. 事業者の環境保全活動について

民：サントリーさん（事業者）の環境保全活動は一般の人や団体と共同しているか。

事：1 社だけの活動では効果が小さいので共同活動を進めている。例えば、工場周辺の清掃活動は以前工場だけで実施していたが、現在は周辺住民と一緒に活動している。

地下水を利用しているため、水資源を涵養する水源保全活動は、子供さんや市民の皆さんにも参画いただきたいが、山林での活動となり危険がともなうため、林業のプロと社員で実施している。一緒にできることを増やしていきたい。

5. プラスチックの洗浄と材質

民：プラスチックの洗浄はどこまで必要か、水がもったいないようにも思う。溜り水で洗えばよいか。

事：洗浄水の環境負荷は LCA で分析しないととも言えない。リサイクル手法によって洗浄の要求レベルは異なる*が、回収品の輸送や保管中の腐敗・悪臭の防止のためにリサイクルするためには洗浄が必要。（*材料リサイクルはきれいさが必要だが、ケミカルリサイクルでは不要）プラスチックは「その他プラ」と区分されるように材質も多岐にわたり、また回収でも混合するため、前半の久保専務の報告のように元の材質のプラには戻らない。一方 PET ボトルはアルカリ洗浄で表面の汚れを除去し、分子の中に入り込んだ汚れも化学分解やメカニカル手法で除去でき、元の PET に戻ることができる。

事：プラの用途・中味も多岐にわたり、例えば化粧品の容器は香りを吸着し、除去できない。

6. バイオプラスチック・生分解性プラスチックの性質とリサイクルについて

事：ポリ乳酸はバイオプラであり、生分解性プラである。生分解性プラとは、大気中の酸素で自然に分解する・土に帰るものであるが、だからと言ってその辺に捨ててよいというものではない。またポリ乳酸単体では強度やその他の性能が不足するが、それを補う別素材を併用すると生分解性がなくなる。バイオプラは原料を石油から植物に置き換えるもので、最終的に焼却されるときにカーボンニュートラルとなるメリットがある。

民：消費者は表示を見てどうしたらよいのか考え迷う。プラは洗うのも手間、分別するのも手間。

事：環境問題やリサイクルの救世主になるかどうかは別として、生分解性やバイオという新しい技術に取り組んでいくことは絶対に必要である。

事：生分解性の発想は、散乱ゴミとなっても土に帰って環境を痛めないようにすることであったと思う。しかし日本では容り法もあり、道徳もありそういう発想での生分解性は不要と思う。一方バイオは食糧にならない部分の植物の活用であり、石油資源の節約という意義がある。

事：例えば、富士山では生分解性は有用かもしれない、研究開発の意義はある。

7. プラのマテリアルリサイクル（材料リサイクル）とサーマルリサイクルについて

事：プラのマテリアルリサイクルをどこまで求めるべきと思うか、ものによってサーマルリサイクルすることはどう思うか。

民：難しい。

自：サーマルは行政から言い出すと分別が進まなくなるので言い難い。

事：容り法当初は、埋め立て処分場や焼却炉の問題もあったのでできるだけリサイクルするという方針だったが、10 何年経過して変化している。ただし燃やすにしてもインフラすなわち高性能の焼却炉も必要であるし、熱回収するための発電設備等のコストも課題。マテリアルリサイクルは技術の進歩が期待されての話だったが、思うようには高品質・低コストになっていない。10 何年の結果が不合理と事業者は感じ、プラの再商品化手法については、今回の容り法改正の一つの大きなテーマとみている。

事：今、家庭ごみにはプラスチックが多いが、元のプラスチックには戻らない。PET ボトルは単一素材で量も 60 万トン近くと多く、分別排出、分別収集、マテリアルリサイクル・BtoB しやすい。プラも量が多いが素材種類が多くマテリアルリサイクルは難しい。

事：焼却が不完全だとダイオキシンが発生することも、今は焼却設備が整っているのでダイオキシンの発生はないということも 8 割方の人は知らないのではないかと。サーマルリサイクルについての判断材料を持ち得ていないところに根本の問題があると思う。

民：ある自治体では矛盾に陥っている。分別することでごみの熱量が下がって追い焚きの燃料が必要になっている。首長は経済的に見れば紙やプラを分別しなければ燃料を使わずにすみ、リサイクルするより合理的と分かっているが、分別を推進している環境担当部署には言えない。会計では環境コストと経済コストの両方を比較して行くことが必要。

事：処分場・焼却炉の心配が 10 何年たつて変わってきたためにこうした矛盾が噴き出した。昨日から始まった審議会でも環境とコストをしっかりと見るべきとの発言があった。

自：リサイクルにはエネルギーがかかるとのことだが、燃やした方がエネルギーはかからないということですね。

事：ごみ処理という観点も必要で、例えば医療系廃棄物など 1500°C で焼却することで無菌化でき、焼却処理は最も安全、確実で低コストである。10 何年前は高性能な焼却炉もなくダイオキシンも発生するというので焼却は最下位に置かれた。今は事情が変わってきている。プラ容器包装の石油に占める割合は 3%ではあるが、それでも原発何基分というエネルギーを持っているとも言える。

事：お台場に東京都の最新鋭の焼却炉を見学したが、プラを分別すると焼却熱量が下がり、発電できなくなっているとのことである。

事：プラはそもそも石油であり、その熱量は石炭以上あり、焼却でそのエネルギーを回収することは意義がある。

事：生ごみはそのままで燃えないので、プラがあると助燃材になる。なければ石油かガスが必要になる。

自：グリーンプラザでは廃プラが分別できていないので、逆に熱量が高過ぎ定格量まで焼却できなくなるため、プラントメーカーと相談し、ごみに水を掛けて調節している。

自：分別すると次は低コストの小さな焼却炉で済む。近隣町村とまとめやすい。

事：エネルギー政策との整合性を取っていくべき。

事：適材適Rすべきと思う。PET ボトルもラベルがあるからボトルに印刷しなくて済み、リサイクルしや

すい。逆に印刷したラベルをプラとしてリサイクルすることは困難なのでエネルギー回収すべき。キャップはPPかPEの単一素材なのでリサイクルしやすいと思う。プラとしてリサイクルしやすいものはプラとしてリサイクルし、そうでないものは石油としてエネルギー回収すべき。ただどこまで分別できるかという課題がある。PETボトルは前半の報告にあったようにリサイクルで分子量が下がりポリエステル繊維にちょうど良くなる。BtoBだけでなく、ボトルの後、繊維に再生されて長く使われるリサイクルもよいと思う。

事：焼却を是とすることで分別がないがしろにされることには絶対反対。プラ・PETに限らず使い終わった後、意味のある分別をきちっとやれるようにしたい。

事：家庭から排出した後のリサイクルの行方を追跡しきちんと説明することで、市民に納得できるものであればそのリサイクル手法は賛同が得られる。

事：どうしようもないものもきちんとした行き先が説明できなければならない。

国：リサイクル制度の目標値をどのように決めていくか。どの水準に目標を置くべきか。子供の教育からエネルギー政策まですべてを追い求めていけばシステムは大きくなりコストも膨大になる。環境省、経済産業省と知恵を絞っている。

事：審議会ですっかり議論していきましょう。

8. 資源物の持ち去り問題

民：資源物の持ち去りをどうしたらよいか。軽トラであたかも業者のような顔をして持って行ってしまふ。知らない人は追いかけて渡してしまう。注意すると逆にすごまれる。

民：福祉の問題もある。うっかり働くより生活保護で生きていけるヨーロッパと違い、自転車に山積みしてやっとな食べている人もいる。そういう人を逮捕するのはどうかという声も市民の中にはある。

自：熊本市から聞いたところでは逮捕した例は、外国人の組織的なものであった。不法投棄にならなければよいが。

事：国内循環という点で問題。一市民としてもせつかくきれいに分別排出したものがどうなるのか分からなくなる。

自：悪の資金源になることも考えられる。

9. 事業系一廃について

自：事業所から一廃として排出される廃プラの取り扱い、廃掃法で産廃となるものの取り扱いを明確にする必要がある。

民：例えばPETボトルも事業所が家庭と同じように分別排出しても産業廃棄物であり、まとめて回収される。せつかく分別しても全部まとめてパッカー車で産廃として処理場で焼却されてしまう。進んでいるところは事業所ですすゴミも個人のものだから家庭に持って帰って排出しなさい、としている。しかし事業所から排出すると分別してあっても産廃であり、その処理は産廃業者に委託しなければならない。そういうルールは行政で説明書を作っているが、事業所まではなかなか届いていないのが実情のようだ。法がどこまで本気か見えてこない。

事：ごみか資源かは、有価かどうかで判断される。決してそれだけとは思わないが、自治体の判断である。

民：法律は自治体ごとの判断が異なってはおかしいのだが、とりわけ廃掃法ではそういうところが多い。

10. 広域の分別について

自：分別しなくて良いようにPETボトルの回収はできないか。広域なので足並みが揃わず分別回収が困難。

事：ヨーロッパを視察し、皆一緒に出し、集めそれから選別するという状況を見てきたが、日本は最初いきちんときれいに分別しているので良いリサイクルができる、BtoB も安心してできると心を強くした。したがって是非、分別排出・分別回収をしてほしい。技術的には回収してから選別でもできないことはないが、分別排出・分別収集より多くのエネルギー、人手とコストがかかると思う。

事：分別は容り法の市民・自治体の役割分担であるが、衛生の概念、清掃の概念からしても必要なことではないか。ヨーロッパでは市民の分別をしなくても、広域で10万トン規模であり、採算は厳しいと聞いている。収集後に選別をやらざるを得ないのではないか。

事：地域によってインフラが異なるが、全国一律の法律でよいのか、容り法の大きな課題の一つである。

<ファシリテーターまとめ>

- ・ 環境教育、サントリーさんの取組み、プラ排出時の洗浄、プラ材質、リサイクルの行方、リサイクル手法、容り法と制度、持ち去り、廃掃法、広域の分別と多岐にわたる意見交換を行い、連携を深めることができた。連携・周知は今日のこのような場で進められていると考える。
- ・ 容り法当初は処分場の逼迫が大きな問題だったが、10何年を経過していろいろと変化してきていることへの認識も深められた。
- ・ 今後の法見直しに向けてさらに連携を深めていきたい。

第2分科会

主な討論内容 『PETボトルのリサイクル、環境配慮設計とEPR、レジ袋ごみの有料化、PETボトルのリユース』

参加者：計20名

市民：7名

自治体・国：7名

事業者：7名



1. PETボトルのリサイクルについて

民：PETボトルは今、本体からキャップとラベルを分別して排出しているが、すべてPETにして、分別しなくていいようにできないのか？ 年齢が高い一部の方々は分別がやりにくくなっている。今後外国の方々や高齢者が増加するなかで、消費者の立場に立って考えてほしい。情報がいきわたるようにしてほしい。

事：PETボトルのキャップは中身の品質を守り漏れないためのもの。PETボトルの固い材質とPPのキャップの柔らかい材質のほうが、きっちり閉まり中身が漏れにくくなる。それに比べ固い物性どうしだと漏れやすい。PETキャップも市場にはでているようだが、リサイクルで一番困るのは中身が入ったままで排出されることである。

ラベルはPETにできるのだが、ラベルのインクがリサイクルを邪魔する。又リサイクルで分離する時もラベルが軽くなってくると比重分離も難しくなる。

国：品物によっては（いろはす）消費者とメーカーが協議しあって完成した商品もあり、今後予算が取ればデータを取って調査も行いたい。リサイクルが一番進んでいるのはドイツではなく日本。

事：色々な情報が市民にまで行き渡るようにしてほしい。

2. 環境配慮設計とEPR

事：メーカーは容器の設計段階で、環境に配慮した容器を作ろうと努力している。その結果複合素材や複合材質になり、分別の判断がつきにくくなる場合もある。例えばマヨネーズの容器は複合材質にし、単一材質に比べ軽くしている。

民：容り法の一番悪い点は、市民も市町村も努力しているのに、企業責任を追及していない点だと思う。

国：主体間でそれぞれの努力を認め合うことが大切だと考える。容器の減容化・減量化など環境課題に積極的に取り組んでいる企業もある。EPRの要求もあると思うが、頑張っている会社もある。

3. レジ袋について

事：中国ではレジ袋を禁止している。1960年代ポリエチレン製品の原料の余った分でレジ袋を作成した。

レジ袋の製造とマイバックスの製造でどちらの環境負荷が大きいのか、全体を見て考えないといけない。

民：我々はレジ袋辞退をして、プラ原料を減らすということではなく、大きな目的は、市民が（マイバックス持参で）環境活動をはじめるチャンスとなることであり、そう願っている。

国：レジ袋で中国台湾を相手にしてはいけない。日本がやろうとしている白色汚染対策とレジ袋の有料化は目的が少し違う。

日本のノーレジ袋は市民の意識をつくるのが課題で、誰でも取り組みやすいということでスタートした。普及啓発の効果はまだ足りていないが。

事：日本は小学校の4年生でしかごみ問題の授業がない。

民：今から親の教育をするのはもう大変だから、子供の教育をしなくてはならない。

4. ごみの有料化

県：熊本県内はほとんど有料化しており、水俣市は条例化していない。大分県は有料化が進んでいないが大分市は有料化している。

民：熊本市の回収袋の作成費用は（30円～35円）、その程度の負担金では有料化とはいわない。市民を甘やかしてはいけない。市民の生活も様々なので、意識を変えてもらうことが重要。

国：ごみを出している人に罪悪感がないのを修正してもらいたい。様々な背景がある市民の生活の中で、意識を変えてもらいたい。環境以外の重要な視点を踏まえて考えてもらいたい。

民：ごみの処理については、全国統一した制度化にすべき。そうすれば、ルールは同じなので転居などでも分別など迷わないでできる。

国：S46年から同様の提案をいただいているが、全国一律の制度を作った場合、市町村の規模により違いがあり、小さな市町村は音を上げてしまう。なかなか対応はしにくい。

民：教育の面でもいつかの時点で統一的な指導にしてほしい。

自：分別排出に関して、八代市はステーション回収で指導者に立ってもらい、チェックをかけている。23区分しており、焼却物は生ごみ位しかない。

自：どこまで分別するのか、あまり厳しくすると近隣市町村に持って行ってしまう。

5. PETボトルのリユースについて

民：PETボトルは自宅で何回リユースできるのか？自分はマイボトルのように使っているのだが。

事：現在販売しているPETボトル飲料の容器は再使用するようには作っていない。

民：一般の人に、なぜそうしなくてははいけないのかなど浸透するように、行政もわかりやすくPRしてほしい。

第3分科会

主な討論内容 『分別・排出の方法、PETボトル関連、レジ袋について、啓発、リサイクルの方法、食品容器の安全性、3Rについて』

参加者：計16名

市民：7名

自治体・国：4名

事業者：6名



1. どの程度まで洗浄すればよいのか

自：軽く簡単にさっと洗えば良い。

事：油を落とすために温水でプラスチックを広げ、苛性ソーダを使う。

事業者は汚れがあってもリサイクルできるが、地域が受け入れてくれない。

民：マヨネーズやケチャップのような汚れの落としにくいものは燃やすごみへ出す。

事(再)：家庭で洗うのは臭い対策として有効。

迷惑施設といわれるのは臭いが最大の要因で、洗って出すのは臭い防止に効果がある。

チューブ状の容器でもふたつに切れれば洗える。

ピカピカにしなくても良く、さっと洗えば良い。

せっかく洗っても汚れたものと一緒に洗うのはもったいない。

家庭で洗うのと事業者が洗うのでは目的が違うということはある。

汚れ具合は自治体によって違うが汚れは少ないほうが工場の負荷が軽くて助かる。

違う自治体のベールを組み合わせて平均化して洗う工夫をしている。

汚れのひどいベールだけを処理すると設備能力をオーバーすることがある。

ベール品質は全体に良くなっているが、自治体により大きく違う。

スタートラインで良いものを出して戴くと助かる。

自：負担になるのではないかと。どのくらい丁寧に洗うのか。どこまでお願いできるのだろうか。

民：手間ではない。油が付いていると思えば食器を洗う時に一緒に洗う。

2. 分別の仕方について

民：表示がなくてプラなのか判らないことも多い。

事：分別にはプラマークだけが目印、表示がない場合等でわからなかったら燃えるごみ。

3. プラの分別収集をやってない自治体

自：コストの問題ではないか。業者とのアクセスも関係するかも。

事：分別収集のコストと再商品化のコストを分けて考える。埋め立てコストや焼却コストも含め、総合的な判断が必要。

ごみの収集量が下がっているという背景がある。リサイクルの広域化も考えられる。

コストだけではなく、資源循環、エネルギー利用、ごみ処理の将来展望など、難しい問題。

自治体事情による、判断項目が多い。

4. PETボトルのラベルについて

事：表示が小さい、ミシン目をしっかりつけて欲しいなど要望は多いが統一は難しい（ガイドラインはある）。つぶせばラベルはすぐ外せるのでミシン目がなくても良いとの議論もある。

民：貼りつけてあるラベルがある。はがしやすいものに統一してほしい。

事：PETボトルは底を見れば判る（へそがある）。

ラベルをのりで貼ってあるのは事業者泣かせ。

薄肉化すると風力分別できないという課題もある。関係者の議論が必要か。

事業者は努力している。そこから外れるものがあれば持ち帰り対処したい。

5. PETボトルの輸出

国：PETボトルは売れるので自治体はソロバンをはじく。

国は国内循環が優先とのガイドラインを出し、容リ協以外に出す場合の報告を指導しているが守られない。

自治体の判断であり、規制はできない。

グローバルなリサイクルも考慮されるべきかもしれないが、同時に環境問題も配慮すべきである。

6. PETボトルとその他プラの分別

事(再)：PETボトルの選別ラインにその他プラの容器が紛れ込む。容器はすべてPETボトルと思っている人もいる。

民：識別表示のマークが見にくくてPETボトルかその他のプラボトルか判らない。

7. 啓発について

事：本日のような場を通して啓発に貢献している。

事業者は努力しているがプラスチックについての情報発信はまだ不足している。

全ての子供に工場見学の機会を与えられるような仕組みがほしい。

民：学校教育のなかで一貫して教えられないか、そのためには関係者が皆で声をあげれば進むのではないか（学校、市民、教育委員会、事業者）。

事：ごみの分別では子供がリードしている。

事：商品そのものも知ってほしい。情報共有を進めたい。

民：事業者の啓発不足を感じる。

8. レジ袋について

事：レジ袋の法規制はどうだろうか。

民：消費者の意識は少しずつだが改善している。レジ袋が無料だからその店に行くことにはならない。今ではコンビニでもマイバックをお持ちくださいと呼びかけるようになった。

9. リサイクルの方法と食品容器の安全性

事：元に戻すのがリサイクルという考え方には問題がある。

プラスチックは元に戻すのが難しいので今の制度は見直すべき。

まずは分別をきちんとやるのが基本。

PETで袋を作っているというのはJTが宣伝を兼ねてやっているのではないか。あるいは産廃ベース。

事：冷凍用の容器は心配せずに使って頂けるでしょう。

事：酢のPETボトルは心配せずに使って戴いて大丈夫です。

10. 3Rについて

事：リデュース、リユース、リサイクルという3Rの優先順位があるが、環境全体を良く考えてという但し書きを忘れないでほしい。

<ファシリテーターまとめ>

分別の仕方、洗い方をどうしたらいいか、見分け方をどうしたらいいかについてかなり具体的に話し合った。

分別収集をしていない自治体についての質問には、コストだけでなく色々な背景があるので学習をします。PETボトルの話題がいくつかあった。

- ・輸出については国内循環を基本とするが自治体の判断となる。
- ・事業者にとって合意を進める必要があるのは、ラベルのはがし難いものがあるとの声への対応。

情報の普及、啓発には関係者それぞれが声を上げていく。努力をしていく。これからもがんばりましょう。

リサイクルの方法について、勉強会的に取り上げた。

また個別の安全性の問題も話しがあった。

PETボトルとプラスチックについて理解していただけたと思う。

3Rについては時間がなくできなかったが話題として取り上げた。

以上

